

WEB版 私と、定禅寺通

定禅寺通エリアで活動する方にお話を伺いました



第4回 立町たちのみ部 副代表 ひらの まさき 平野 真樹 さん

千葉県出身。東日本大震災を機に仙台でOFFICE HIRANOを開業。2020年12月、思い入れのある立町で「牡蠣とお酒 m tachi.(エムタチ)」をオープン。事業のかたわら、立町たちのみ部の活動や定禅寺通社会実験への協力等を行う。

被災した仲間を応援しながら 新たな仲間たちと出会う

製薬会社に勤めていまして、転勤で来仙してから、仙台で過ごすうちにプライベートでもたくさんの友人・仲間ができました。そんな折、東日本大震災が起き、被災した仲間を応援したいという思いを強くしていたところに東京への転勤が決まりました。仙台を離れるわけにはいかないと退職を決意し、仙台で復興支援や被災地の生産者を応援する事業を始めました。

被災した牡蠣漁師の仲間を事業パートナーとして応援しながら、食堂を開くことが夢という仲間と被災地の食材を使った食堂(m table.みんなの食堂)をオープン。その食堂が入居していたビルの取り壊しにより閉店した後、立町で飲食店に関わっている時に、同じく立町で「酒のかわしま」をされている川嶋さんと出会いました。

川嶋さんとはすぐに意気投合！立町を盛り上げようとたくさんのイベントをやりました。

イベントを繰り返すうちに、仙台市から声をかけてもらいまして、せんだいリノベーションまちづくりスクールを受講することになりました。

立町を元気に！立町で商売を！ 立町たちのみ 開始！

スクールで専門家のお話を聞くうちに、単にまちを盛り上げるだけじゃない、「まちづくり」について少しずつ分かるようになった気がします。

発表の時に、川嶋さんが「定禅寺通の緑道でたちのみしたら面白いじゃない」と思い付いたのがきっかけで、立町たちのみ部を結成し、緑道でお酒を楽しめる「立町たちのみ」を立ち上げました。2019年に3回開催後、コロナ禍で中断を余儀なくされたものの、2022年に再開し、また多くの方に楽しんでいただくことができました！

多くの方に立町に来ていただきたい、立町の素敵なお店を知っていただきたい、立町で商売をする人が増えてほしい、という想いは、立町で活動を始めた当初から変わらず、ずっとコツコツがんばっています。

そして2020年12月、思い入れのあるこの立町で、自分の店(牡蠣とお酒 m tachi.(エムタチ))をオープンしました。「m tachi.」は、みんなの立ち飲み、みんなの立町、という意味なんです。



「立町たちのみ」は、立町エリアの回遊や飲食店等の利用を促し、エリアの活性化と地域交流の促進につなげることを目的に実施。地域内外を問わず多くの方々の交流が生まれる場としても期待されている。次回開催は2023年5月を予定。

WEB版 私と、定禅寺通

第4回 立町たちのみ部 副代表
ひらの まさき
平野 真樹 さん「みんな」の小屋を盛り上げた
「みんな」でやっていける仕組み

昨年の夏、定禅寺通中央緑道にコンテナを置いて、いろいろなお店が期間限定で出店する社会実験がありました((一社)定禅寺通エリアマネジメント主催)。

声をかけていただいて出店させてもらったら、めちゃくちゃ楽しくて!!知らないお客さん同士がその場で知り合っつながって、すごく盛り上がった。

会場が火気厳禁ということで料理が出せなかったんですが、他店とコラボして提供可能な料理を出してもらったり、ショップカードを置いて料理を食べられる店を紹介したり、仲間の店と協力して乗り切りました。

ひとりではできることって限られますから、自分の店だけ儲かればいいじゃなくて、みんなでゆるくつながりながらやっていく仕組みがいいなって思っています。ガチガチにやろうとすると疲れてしまうので、ゆるくがいいんでしょうね。

コンテナに呼びやすい名前があったらいいかと、勝手に「みんなの小屋」って呼んでいたら、いつの間にかそれが正式名称になっていたみたいで、ちょっと感動しました(笑)

ひとを巻き込む
with 若い世代

同い年の友人と、若者の話はちゃんと聞いた方がいいねと話しています。若い方たちがこれから作っていくわけだから。最近の若い方ってしっかりしてますよね!…自分もそんなことを考える世代に入ってきたかな。

m tachi.にも、お客さんやアルバイトとして20代の若者たちが来てくれています。彼らは、いろいろな活動をしているお客さんの話を聞いているうちに、自然とまちの知識を得て、自然とまちに巻き込まれていくんです。そうやって巻き込んで、みんなにつながった方が面白いし、楽しいですよ。



氏の朗らかな人柄が
多くの人を巻き込み
つないでいく



「みんなの小屋」の社会実験は、公共空間利活用による収益をまちづくりに還元する目的で行われた



盟友の川嶋氏(右)をはじめ、仲間の飲食店と協力してみんなの小屋を盛り上げた

2030年の定禅寺通に向けて
今からやるのがたくさん!

2030年の定禅寺通は、広がった歩道にお店やベンチがあって、子どもも大人も大勢の人でにぎわっている、そういう風景になってほしいです。実は、その風景の中に自分の店を出したいな、という目標ができたんです。それだけみんなの小屋が楽しかったんですよ。

飲食店をやっていると、毎日の売上とか短いスパンのことで頭がいっぱいになって、先のことを考える機会があまりなかった。でも、例えば子どもが大きくなった時にまちがどうなっていてほしいかということなんかは、中長期的に考える必要がある。長いスパンで考えて活動を積み重ねて、考えたとおりに街が変わっていったら…、やりがいあるだろうな。一生懸命まちづくりに取り組んでいる仲間の姿に、ふとそんなことを感じました。

自分も未来の目標に向かって今からいろんなことをやらなきゃって、ワクワクしてます!

貴重なお話ありがとうございました!

